

## 富士山検定

### H21.2.3

最近、全国各地の地域性を活かした「〇〇検定」という取り組みが目立っているように見受けられます。自身の力を知るためとか、能力を高めるためとか、目的はその人の考え方によればいいことで、それぞれの力量で楽しんでみてはいかがでしょうか。

その中で、富士山の地質、気象、歴史、環境、防災など「富士山」に関する知識や理解度を試験形式で検定する「富士山検定」もそのひとつで、「富士山世界文化遺産登録」に向けての運動を支援するというものです。

山梨・静岡両県のある新聞社が主催となり、1級から3級まで試験があり、あらかじめ決められた以上得点すると合格証が送付されます。

まず3級は、新聞紙上に25問ずつ3回に分け問題が掲載され、2回分50問を選び答案用紙を郵送します。面白いのは、辞書、インターネットなど何を参考にしてもよいことで、35問以上正解すれば合格証が送られてきます。

2級は3級合格者が受験できますが、指定された試験会場での受験で当然会場では何も参考にすることはできません。1級は2級合格者がその翌年に受験でき、2級受験者と同じ日に指定された試験会場で行われます。

今年は小中学生や幼稚園、保育園児も参加できる「富士山検定子ども版」を企画しているようですので、ぜひ挑戦してみてください。

私は、2008年6月と7月に3回掲載された「富士山検定」の2回分の問題を解いて郵送しました。これは自分だけの実力ではなくほとんど友人の知識を充分に利用させていただきました。当然、合格して次の2級試験を受験するかどうか迷いながらほんの少しづつ勉強し、とりあえず受験申し込みをしておきました。

2008年11月9日に都留文科大学会場での試験に前日まで受験するかどうか迷いながらも結局会場に行き久々の試験という緊張感の雰囲気味わいました。

100問中70問以上正解で合格ですが、途中自己採点では50問正解であと50問中20問の正解を目指して持ち前のコンピュータを働かせ、持ち時間90分が足りないくらいでした。

当然不合格と思い込んでいましたが、結果は後日73点得点の合格通知がきました。

おとな気なく喜び、このHPで配信したくなったことと、ひとりでも富士山に関心を持っていただき、さらには多くの方が楽しく挑戦していただきたいと感じました。

いつ、誰が受け、不合格になったのかわからないのが挑戦できる理由のひとつでした。

当然、2009年の1級試験は受けないと思います。とても難しいと聞き及んでいますが、今回はとりあえず、ちょっと自慢げな運の強い証の合格証をご覧ください。

